

ケント (Kent)

育成者：Mr. Leith D. Kent,
来歴：Brooks の自然交雑実生
育成地：Coconut Grove, Miami, Florida
USA.

特性

■栽培特性

樹勢はやや強く、樹は直立性であり、節間長はやや短め、枝梢の太さは中程度である。葉は中程度の大きさで、「アーウィン」よりも少し大きい。花は無限花序で、小花の大きさは中程度、花穂枝や花弁にやや赤い色素を帯びるが、「アーウィン」のような紅色ではない。豊産性で乾燥地での栽培に適する。食味は優れているが、輸送性は低い。

■果実特性

果実の大きさは600～750gで、マンゴー品種の中では中果系で、熟期は中～晩性に属する。果形は卵形、果梗部と果頂部は丸く嘴はない。果皮は黄金色に深紅色が混ざり、果面には黄色い斑点が多数存在する。亜熱帯気候下では、完熟しても果皮はしばしば緑色のままで、完全に着色することはない。果肉は深橙色で軟らかく、多汁で、食味、風味ともに濃厚である。ほのかに甘い香りを有し、果肉中の繊維は少ない。糖度は17%程度で、酸も0.4%程度あり、食味は非常に良い。生食だけでなく、ジュースや乾燥果実としても優良である。繊維が少なく果肉が軟らかいため、輸送中の荷痛みが問題になることがある。貯蔵性は低く果肉崩壊症も発生しやすいため、販売には注意を要する。収穫後の追熟に1週間程度を要するが、この間に果実が乾燥しないように保護する必要がある。また、果皮の緑色をなくすためには、収穫後のエチレン処理が効果的である。種子は単胚である。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

「アーウィン」より炭疽病に強く、輸送中の病害の発生も少ないが、バクテリアによるブラックスポットに罹病性である。マンゴー栽培で特に問題になるのはハダニ類、チャノホコリダニ、スリップス類であるが、他の品種と比較して特に抵抗性がある訳ではないので、害虫に対する一般的な防除は必要である。

ハウス栽培では低木仕立てが基本であるが、本品種は直立性なので、低木仕立てにはむかない。しかし、枝が水平になるよう丁寧に誘引することで、低木仕立ても可能である。

熟期に果皮色の変化が少ないので、未熟果を収穫すると追熟しないで萎れてしまう。反対に過熟になると、果実中で種子発芽がみられ食味が低下する。「アーウィン」より約半月遅い収穫を目安とする。果肉崩壊症が発生しやすいため、果実生育期間は養水分の欠乏を起こさせないように管理する。特に、カルシウムの欠乏に注意する。

■地域適応性

多湿な環境下では樹が徒長し、コンパクトな樹冠の維持は困難で、病虫害の発生も多くなるため、ハウス内の換気を十分に行う。メキシコ、中央アメリカや西アフリカの乾燥地帯では主要な経済栽培品種である。豊産性品種であるが、開花期の低温や高湿度条件下では結実が不安定である。特に開花期に低温に遭遇すると、種子が退化して小玉果になる。

(米本仁巳)